

## 研究調査委員会令和4年度の調査報告

令和4年度は、傾聴療法士の活動について

1)講座受講生の考え

2)現在、活動している人の状況

を調査しました。

1) 3つの傾聴講座の方々にアンケート用紙を配布し、選択肢なしの自由記述方法で回答して頂きました。41名の回答内容をいくつかのグループに分けまとめ、回答数を調べました。

### アンケート結果

問1 傾聴を勉強しようと思った動機はなんですか？

私生活(家族)にプラスになるだろう	16
自分が聞いてもらって助かった経験があるから	10
カウンセリング能力を身に付けたい	10
現在、福祉の仕事をしているので役に立つだろうと思って	8
今後何かの仕事につながるだろう	5
家族の病気がきっかけで	3
現代に必要な事と思って	2
生きるエネルギーになるだろうと思って	1
自分が人間関係で悩みがあったから	1

問2 傾聴療法士、カウンセラーの資格を取りたいと思っていますか？

取りたい	29
取りたいけれど、できるか不安	5
興味が深まれば	3
考えていない	3

問3 講座を修了したら、どんな活動をしたいですか？

今の職場(福祉施設・役所)の仕事	13
家族・友人の話を聞く	11
苦しい方を救う役に立ちたい	10
傾聴ボランティアをしていきたい	8
カウンセリング相談	3
障がい者の働く場を作りたい	1

問4 活動の場があれば活動してみたいと思いますか？

思う	・・・・・・・・・・・・・・・・	31
不安はあるが、やってみたい	・・	4
興味ある場なら	・・・・・・・・	1
まずは、今の仕事をする	・・・	1
わからない	・・・・・・・・	2

問5 いずれは収入を得る仕事をしたいと思いますか？

今は考えていない	・・・・・・・・	18
したい	・・・・・・・・	13
できればしたい	・・・・・・・・	5

2) 傾聴療法士になった人は、どのような活動をしているか。

(a) 以前から従事していた職場で傾聴している。

例 医療、介護、教育、役所等

(b) ボランティア

◇介護施設等での傾聴ボランティア

コロナ禍でほとんど活動休止中。

◇電話（いのちの電話、チャイルドラインなど）

地域ごとに採用方法や研修方法が違うが、全国的に人員不足の傾向にある。

◇災害被災地での心のケア

被災した全ての人に心のケアが必要だが、自分より相手がもっと被害が大きかったかもしれないと遠慮して、その地域内ではあまり話そうとしない。そのため、よその地域から来たボランティアには安心して辛い気持ちを話してくれる。

(c) 自営業での仕事の1部で有料の傾聴をしている。

例 整理収納アドバイザー、漢方薬局、傾聴カフェ、占い師など。

(d) ボランティアの経験を積んだ後、各種の相談員として就職している。

経験して身に付けたこと・感じたことが、採用面接などで強みとなる。